

いちき串木野市地域学校協働活動

# 学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 4-11(207)  
＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和4年12月12日  
いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

ものづくりの秋です。子どもたちがミシンを使って、ハンドメイドの作品に挑戦しました。ほとんどの子どもたちは、ミシンは初心者で、多くのボランティアの助けを借りて作製しました。今回は、串木野小学校、照島小学校、市来小学校でのボランティアの方たちと子どもたちの様子をお知らせします。

串木野小学校では、2人のボランティアと3人の学校スタッフの支援を頂きました。11月24日に5年生にミシンの縫い方を教えました。教材に練習布を用いました。なお、本番ではエプロンを作製するとのことです。

先生から、まず、コロナ感染予防対策を徹底するようにと指示があり、作業前後の手洗いの励行、授業中に密集しないことが指導されました。

ミシンの取り扱いについて「ミシンは壊れていません、人が間違っただけから動かないのです、正確にミシンを扱ってください」との注意がありました。また、直角縫いの説明があり、直角縫いは、直線縫いが終わった後、「バスケットボールの選手がするピボットのように、針を固定してから布をくるっと回してから縫う」との分かりやすい説明がありました。

子どもたちは、直線縫いをした後、上手に布を回転させ、直角縫いができました。



白糸、黒糸を机に持って行ってください！（串木野小）



糸のセット、大丈夫かな！（串木野小）

照島小学校では、6名のボランティアが駆けつけてくださいました。11月2日に5年生31名が、ナップサック作製に取り組みました。まず、始めに、先生から「これまでミシンを使ったことがある人」との質問があり、経験のある子どもは4名と少なめでした。

子どもたちは糸をミシンにセットすると、「通った、通った」と喜んでいましたが、下糸がセットされていないことが分かり、がっかりしました。縫い目がチャコペンの線からずれないように、ミシンと向き合い、ミシンが早く進むと「こわい、こわい」と声があがりました。

ボランティアの方たちのおかげで、時間内にミシンを使えるようになりましたが、ボランティアの方たちは、針に細い糸を通すのに苦労されていました。

市来小学校でも多くのボランティアの方たちに支援を頂きました。10月14日に6年生がエプロンを、11月10日、11日に5年生がクッション、ティシュカバー、枕カバーを作製しました。

先生から「慌てず最後までしっかり行う」、「人に迷惑をかけない」、「友達に気を配る」、「失敗してもパニックならない」との注意がありました。ボランティアの方から、ミシン針に糸を通すときは「先が分かっている糸は、はさみでもう1回斜めに切ってから通した方が楽だよ」、「折り曲げた布をまち針でしっかり止めてから縫うと楽に縫えるよ」とのコツも教えて頂きました。

終盤になると「これで完成、スポンジを入れたら終わり」との声が聞こえました。作った作品は、「お母さんにプレゼントするんだ」、「家に飾るんだ」と出来上がりを期待してました。完成作品は先生に見てもらい、「上手だね」、「すごいね」、「OKです」、「いいでしょう」と言われ、子どもたちはうれしそうでした。最後に、皆で床に落ちた糸くずを拾って、授業は終わりました。

ミシン操作を子ども一人一人に同時に浸透させることは、難しいです。今回は、ボランティアの方たちがたくさん参加し、スムーズな授業ができました。学校とボランティアの方々の協働の必要性を感じました。



ミシンの順番を待ってます！（照島小）



皆で弁当包み袋を作成します！（市来小）

**連絡先＝市来庁舎3階 市教育委員会社会教育課**

**(Tel 21-5128) (FAX 36-5044) / ご意見・質問・相談もどうぞ**

**統括コーディネーター（串木野地域 濱田俊浩）（市来・生福地域 有元 操）**

